



# 中川を知ろう！

～中川駅周辺の移り変わり～



## 目次

- ① 区画整理事業
- ② 中川駅の昔と今
- ③ 町並みや施設
- ④ 歴史的文化的文化財



嬉野中学校

# ①区画整理事業

❖もともとは農地だらけで建物は全くなかった

年号	主な出来事
昭和 56 年	線引き（地域区分）をし、家や森林などを分ける
63 年	住民にアンケートを実施
平成 3 年 2 月	行政と市民が一体となり工事が始まる
2 年 9 月	計画決定
13 年 1 月	アンダーパス（※1）が完成する
16 年 1 月	中川駅がリニューアル 東口と地下道などが新しくつくられる
17 年 1 月	松阪市、嬉野町、三雲町、飯南町、飯高町が合併
20 年 3 月	事業が終了

本地区は、大阪・名古屋方面および伊勢志摩方面への分岐点となる近鉄伊勢中川駅を擁する地区であり、嬉野町の玄関口に位置する地区である。

しかし、その現状は大部分が農地による利用が行われており、土地の利用転換が一部で進められ無秩序な市街化が進行していた。そこで本地区は、良好な市街化環境を確保し、また都市機能としての商業機能・移住機能を担う地区としての位置付けにふさわしいまちづくりを行うため、土地区画整理事業による整備を進めた。

## ～概要～

- 区画整理では、中川駅周辺から 51.1ha が対象とされた。
- 費用は 147 億 2000 万円。
- 土地の割合

	面積	割合
住宅	33ha	65%
商業	15ha	29%
他	3ha	6%

- 約 17 年間の工事だった。



(※1)アンダーパス



昔の中川駅



現在の中川駅

## ～比べてみよう～

	昔	現在	
家	30 戸	1285 戸	約 60 倍！！
人口	53 人	3048 人	

## ②中川駅の昔と今

中川駅がリニューアルされる前は、西口にしか出入口がなく、ロータリーは、今より小さく、利用度が少なかったです。

そんな中川駅を便利にするため、平成3年2月に工事をスタートし、リニューアルしました。



まず、南側に70m移動させました。次に、西口にしかなかった出入口を東側にも新たに造り、便利さを追及しました。そして、大規模な工事を行い小さかったロータリーが大きくなり、今では当たり前前の地下が作られました。地下道では、壁が明るく光る工夫がされており、きれいに今でも光っています。ロータリーでは、時間を知らせる時計台から、季節で変わる鳥の鳴き声が聞こえます。あまり知られていませんが、改札前の壁に「嬉野町自然と歴史」として紹介されているので、ぜひ見てみてください。



【西口シェルター】



【東口シェルター】

中川駅のリニューアルを記念し東口シェルター前に竣工記念碑が作られました。2種類の記念碑があり、1つは波を表現した「あじいし」、もう1つは太陽を表現しています。大幅に移り変わった中川駅は私たちの日常に今ではなじんでいるようです。

### ③町並みや施設

#### ◆公園

中川に新しく6つの公園がつけられました。

○木下公園



≪公園の工夫点（防災）≫



普段は椅子として使われていますが、災害時には「かまど」として使うことができます。

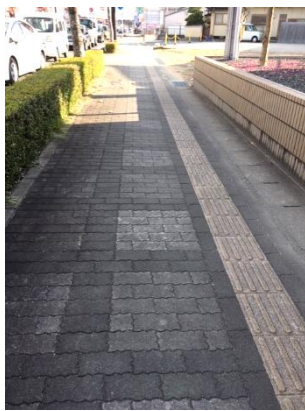
○ほうじ公園



防災倉庫がおいてあり災害に備えています。

#### ◆駅周辺の道

○ながれの道



○にぎわいの道



他にもいくつかの歩行者に目を向けられた道があります。

## ④歴史的文化財

### 《鴟尾 しび》



平成8年 6月27日

釜生田辻垣内瓦窯(かもだつじがいとがよう)から出土した  
鴟尾は全部で3個体分がある。

### 《墨書土器(貝蔵遺跡) ぼくしよどき(かいぞういせき)》



平成14年3月7日

中央部に「田」字と推定される文字が墨書されている。